

## 学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-101

名前：和田愛海

学会名：放射線教育フォーラム令和7年度第1回勉強会

開催場所：東京慈恵会医科大学高木2号館南講堂

開催期間：2025年6月22日

発表セッション名：楽しく医療と放射線の知識を身に付けるための放射線教育教材「ラジトレ」の開発と展開

発表形態：グループ発表

発表日時：2025年6月22日 15:10～15:50

### 1. 発表の概要

ゼミで開発したオリジナル放射線教育教材「ラジトレ」について、教材の意義や目的、構成内容を中心に発表を行った。開発の各段階において直面した課題とその解決策を、時系列に沿って紹介するとともに、今後の展開についても紹介した。

### 2. 質疑応答内容 他

質問 1. このカードゲームは最初に配られた手札で勝敗が決まる個人プレイになってしまいませんか。

→手札にアイテムカードがあり、「相手に単語カードを引かせる」「自分の手札と相手の手札を交換する」といった内容のカードが含まれているため、いろいろ戦略を立てながらプレイできるようにしています。そのため個人プレイにならず、みんなで楽しむことができます。

質問 2. このカードゲームは霧箱実験のように実際に放射線を目にできる実体験がないと思います。実際に体験するといった点において何か内容に含まれていますか。

→この教材はカードゲームのため、実際に放射線について体験して学ぶことはできません。この教材を作製した目的の一つに、放射線に対する“怖い”といった考えを払拭したいという思いがあります。社会見学などで原爆ドーム、平和祈念資料館などを訪れた中学生たちは放射線についてマイナスイメージしか抱かないと思います。そのマイナスをこの教材を通してゼロにし、偏見を持たずに放射線について学んでほしいと考えています。そのため中学生の子たちが楽しく学べるカードゲームという形にしました。

質問 3. この教材に含まれている内容は医療と放射線ですが、放射線は医療以外にも

利用されています。その点を踏まえて、工業、農業や細胞生物関連など他の範囲のカードゲームを作ったりはしないのですか。

→他分野の内容についても大切だと考えているため、学習用冊子の方に空港での荷物検査、考古学研究など医療分野以外でも放射線が利用されているという内容を入れています。しかし、私たちは放射線と医療について専門的に学んでいるため、カードゲームの内容は放射線と医療の内容に絞りました。この教材開発において所属大学の医師や放射線技師の先生方にファクトチェックを依頼し、内容に間違いがないようにしています。他分野の内容について私たちは専門的に学んでいないため、内容に誤りが生じる可能性もあり、カードゲームの内容には含みませんでした。

### 3. 関連発表の内容

#### 講演 1. 東電福島第一原発事故の水産物への影響

(森田貴己/国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所)

東電福島第一原発事故によって放出された放射性セシウムによる水産物の汚染、その後の回復メカニズム、また福島県の水産業の現状と今後の課題について

#### 講演 2. 放射化学の先駆者・飯盛里安と IM 泉効計

(三輪紫都香/理化学研究所広報部)

2021 年度に化学遺産に認定された IM 泉効計と発明者の飯盛里安の業績について

### 4. 学会参加の感想

このたび、大野和子教授の推薦により、放射線教育フォーラムの勉強会に演者として参加した。

これまでもゼミ活動の一環として人前で発表する機会があったが、今回は Web 配信されること、そして推薦を受けての登壇ということもあって、これまで以上に責任を感じ、強い緊張感をもって当日に挑んだ。しかし、会場の皆様が温かく迎えて下さったこともあり、当初の不安は次第に薄れ、落ち着いて発表を行うことができた。発表においては、聴講者の印象に残るよう、PowerPoint に動画を組み込んだり、パネルを手にとって提示するなどの工夫を凝らしました。発表内容はゼミで開発したオリジナル放射線教育教材「ラジトレ」について、教材の意義や目的、構成内容を中心に、それぞれが主に担当した部分について説明を行った。質疑応答では時間の都合上、3 名の方の質問にしか対応できなかったが、講演終了後には多くの参加者が声をかけて下さり、活発な交流の場となった。特に、実際に小学校や中学校で放射線教育を行っている方々から「一緒にしませんか」とお誘いいただいたことは大きな励みとなった。また、去年の 12 月に参加した放射線教育発表会でお会いした方々と再び交流することができたことも非常に印象深かった。多くの方が私たち学生の活動を前向きに評価してくださったことで、これま

でのゼミ活動の意義を改めて実感する機会となった。加えて、学会参加奨励金と いう制度があることで、こうした活動を継続することができた。制度を整備・運用して くださっている関係者の方々に深く感謝申し上げる。今後も京都医療科学大学の学生として恥ずかしくない実績を一つ一つ積み重ね、社会に貢献できるよう努めていきたい。

## 6. 現地参加がわかる写真(4 枚)

